

【山崎主宰の俳句】

日本人

漕ぎ出して四月大空から翼

春雷のがんばっているひとところ

童心のかすかなゆらぎ花筏

金色の桜が咲いて日本人

花万朶漂っている待っている

墜ちながら四月の色の渚まで

放心ののちの千年桜闇

暗転は洛中にあり花篝

崩落のまんなか八十八夜の灯

抱かれてねむる遠山脈の青むころ